26 交通データ標準化・統合による運行計画策定の高度化事業｜株式会社 MaaS Tech Japan

プロジェクト概要

事業者で分断されている運行・利用実績データを標準化し、データ基盤内で人流データと統合することで、移動需要に基づいたダイヤ改正の検討を低コストで可能とする。
更に、改正予定ダイヤにおける接続先の交通モード（鉄道など）の接続性を評価し、公共交通ネットワークとしての有用性維持に貢献する。

課題

- 事業者ごとにデータ形式が異なり、連携した分析やダイヤ策定が困難
- 他交通や目的地への接続に対するダイヤ改正の影響を事前に検証する手段が不足

取組内容

- データ配信基盤を活用した標準データ生成・統合
  - データ配信基盤にて、バス運行データ（運賃箱データ等）を基に、「鉄道・バス乗降実績データ標準仕様」に従った一件明細データを生成する
  - GTFS、GBFS、人流データと統合し、分析用基盤に投入し、分析・可視化を可能とする
- 仮想ダイヤを用いた経路検索・接続性評価
  - ダイヤ改正案を仮想GTFSとして生成し、交通モードを跨って、経路検索エンジンを用い仮想ダイヤでの接続性・到達性分析を実装する
  - これを用い、ダイヤ改正前後での他交通や目的地への接続性・到達性の変化を可視化し、ダイヤ改正の影響を事前に定量的に想定することで、合意形成の迅速化を図る

事業要件

- データ統合によるモード横断のデータ活用（協業化）

技術要件

- 乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）
- 公共交通運行情報標準データ仕様書（GTFS-JP）v4

効果

- 他事業者とのデータ連携を容易にし、データ収集および活用の効率化を実現
- ダイヤ検討時における他交通との接続性や到達性の確認を効率化し、関係者間の合意形成や交通ネットワークを考慮したダイヤ検討を実施

事業実施自治体・エリア

長崎県長崎市域（長崎市、時津市、長与町）、千葉県市川市

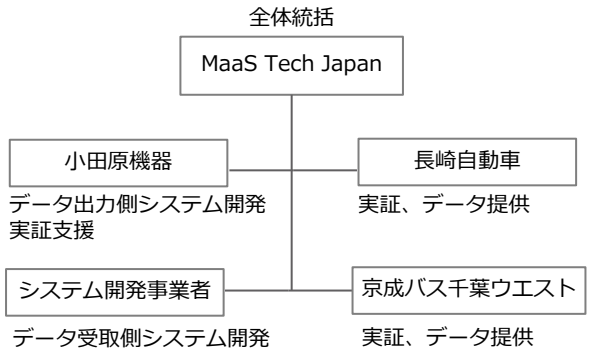
交通事業者

長崎自動車株式会社、京成バス千葉ウエスト株式会社

アプリ・システム等

- ■ アプリ・システム：データ配信基盤、運行計画策定支援システム
- ■ データの取得方法：運賃箱、交通系ICカード、GTFS、人流データ、mixway API
- ■ データの活用方法：仮想ダイヤ経路検索、ダイヤ改正評価

座組



スケジュール

4～6月	全体計画策定／要件定義
6～10月	システム開発
10月～1月	実証／仮想ダイヤ評価
1月～2月	事業成果とりまとめ

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.